

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

青 森 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	尾上町立尾上中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	2	12	23
生徒数	108	87	95	9	299	

研究の概要

1. 研究主題

「主体的に学習する生徒」～指導と評価を一体化した授業展開の工夫

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年・数学科(必修) <TT・少人数指導>
- ・全学年・数学科(選択) <習熟度別指導>

生徒の理解及び習熟の状況において差の出やすい教科であり、本校の実態からも個に応じたきめ細やかな指導が必要であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「主体的に学習する生徒」～指導と評価を一体化した授業展開の工夫～</p> <p>研究の見通し(仮説)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準を生徒の実態に応じて設定し、授業を行うことによって、個に応じたきめ細やかな指導がなされ、主体的に学習する生徒が育成できる。</li> <li>・評価規準を単元ごとに生徒に明示し、学習内容を生徒・保護者に明らかにすることにより学習への目標を持ち、学習後の自己評価をすることにより能動的に学習に取り組むことができる。(校内研修計画より)</li> </ul> </p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1 理解や習熟の程度に応じた指導の充実に努める。  (1) 全学年の数学科の授業でTTを導入し、個に応じた学習指導を行う。また、時間割の工夫で2クラス合同の時間を設定して3人以上の体制での少人数指導も取り入れる。  (2) 学びの機会の拡充として、放課後や家庭での「主体的な学習」を支援する体制を学年・学級のもとに強化する。</p> <p>2 一人一人の学力の評価を生かした指導の改善に努める。  (1) 各単元ごとの評価票を作成し、生徒へ事前に配布する事によって見通しを持たせて指導にあたる。  (2) 学習後の生徒による自己評価を生かした学習指導を展開する。</p> <p>3 小学校との連携を図り、指導方法等の実践研究を推進する。  (1) 町内の2つの小学校(金田小・猿賀小)と連携して、算数・数学の授業実践に取り組む。  (2) 基礎学力向上のための実践研究を連携して行う。</p>
--------	---

平成  
16  
年  
度

### テーマ

「主体的に学習する生徒」

～確かな学力の定着と向上を目指した学習指導の工夫～

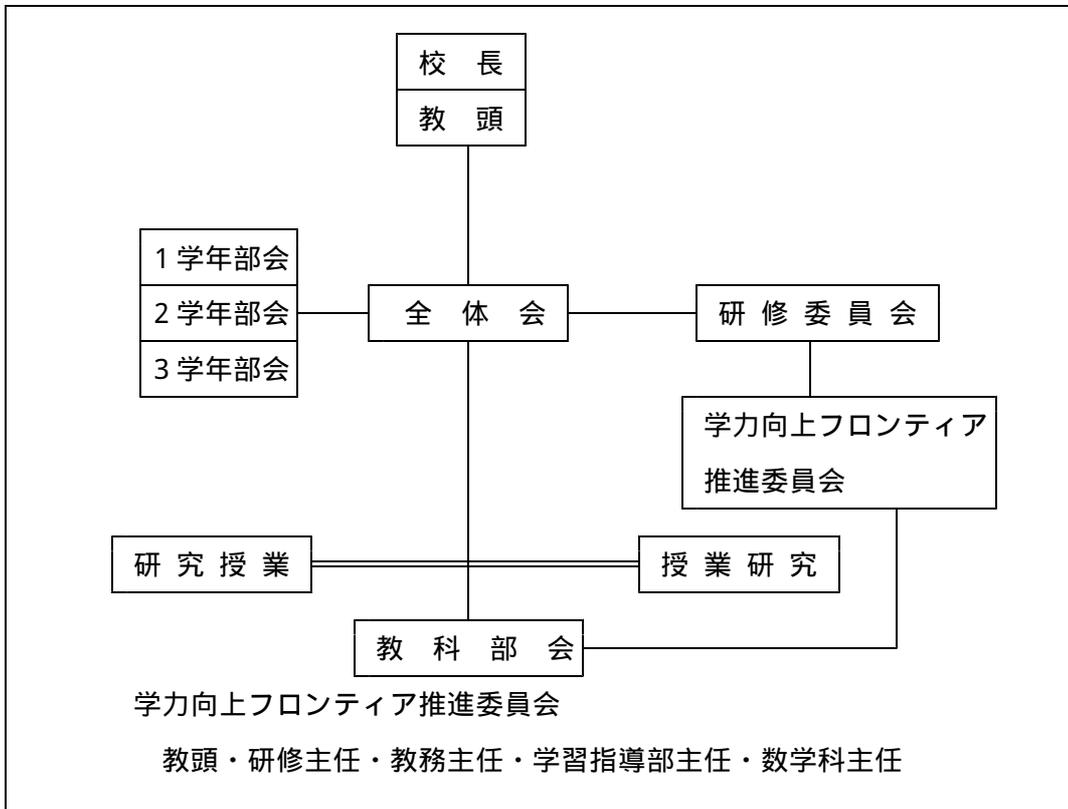
### 研究の見通し（仮説）

・ 学習意欲を喚起するための教材の開発や指導方法に工夫を凝らし、生徒の学力の評価を生かした指導の改善を進め、個に応じた補足的・発展的な学習のための指導をきめ細やかに行うことで、主体的に学習する生徒が育ち、確かな学力の定着と向上を図ることができる。

### 研究の内容・方法

- 1 理解や習熟の程度に応じた指導の充実に努める。
  - (1) 全学年の数学科の授業でITを導入し、個に応じた学習指導を行う。また、時間割の工夫で2クラス合同の時間を設定して3人以上の体制での少人数指導も取り入れる。
  - (2) 学びの機会の拡充として、放課後や家庭での「主体的な学習」を支援する体制を学年・学級のもとに強化する。
  - (3) 一人一人の個性に応じるため、全学年の選択数学に習熟度別コースを開設し、「補足的な学習」及び「発展的な学習」の指導を行う。
- 2 一人一人の学力の評価を生かした指導の改善に努める。
  - (1) 各单元ごとの評価票を作成し、生徒へ事前に配布する事によって見通しを持たせて指導にあたる。
  - (2) 学習後の生徒による自己評価を生かした学習指導を展開する。
- 3 小学校との連携を図り、指導方法等の実践研究を推進する。
  - (1) 町内の2つの小学校（金田小・猿賀小）と連携して、算数・数学の授業実践に取り組む。
  - (2) 基礎学力向上のための実践研究を連携して行う。

### (3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- (1) 目標に準拠した評価に対する意義と重要性について、全職員の共通理解を得られ、具体的な評価規準に基づく評価票作成と指導に生きる評価活動に努めることができた。
- (2) TTが毎時間確保され、有効活用が図れた。生徒にとっても複数の教師に指導されることで、つまづいた問題に対しても意欲的に取り組めるようになった。
- (3) 事前に評価票で学習内容と評価基準を生徒に明示することにより、目標を持ち学習に取り組めるようになった。
- (4) 選択数学では、「補充的学習」<ステップ学習>を中心に継続して指導してきたが、生徒は「できる」ようになる喜びから主体的に学習に取り組めるようになった。(生徒のアンケートより全校で78%以上の生徒が進んで取り組んでいると回答している)
- (5) 学習後の生徒の自己評価や相互評価を学習指導に対する評価ととらえ、授業改善を図ることができた。

### 2. 今後の課題

- (1) 少人数指導の充実に努める必要がある。  
TT指導の充実は図られているが、少人数指導については時間割の関係で時間の確保が難しい現状である。
- (2) 評価票を生かした指導の改善を徹底する必要がある。  
評価基準を明確にしたことにより、生徒一人一人の習熟度は把握できたが、個に応じた指導の改善を徹底するために、指導者間の話し合いを深める必要がある。
- (3) 学びの機会の拡充として、放課後の「主体的な学習」を支援するための時間を学年体制で設定していく必要がある。
- (4) TT・少人数・習熟度別指導など個に応じた指導の効果の測定(検証)と学力にかかわる客観的なデータを蓄積し、授業改善を図る必要がある。。
- (5) 確かな学力の定着の向上を目指すためには、学習意欲の喚起が必要であり、個に応じたきめ細やかな指導を行い、「わかる・できる」成就感を味わわせなければならない。「補充的学習」と「発展的学習」に主体的に取り組ませる教材の精選や教具の開発が必要である。
- (6) 小学校との連携については、各学校で行われている公開授業の参観と授業研究会参加しているが、指導方法等の実践研究を積極的に推進する必要がある。

### 学力把握のための学校としての取組

- (1) 単元テスト(コース別指導後に比較する)
  - ・単元終了後に実施。その後コース別指導後(2時間)に同じ問題でテストして、観点別に比較検証する。
- (2) 学習に関するアンケート
  - ・12月に実施し、学習に対する意欲や姿勢を検討する。
- (3) 定期テスト(年3回)
  - ・総合的な問題を出題して、基礎・基本の定着や思考力や応用力をみる。

- (4) 標準的学力検査（NRT）  
 ・4月に実施。生徒の標準的な学力とその推移を検証する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 小中校長研究協議会  
 対象 管内小中学校長  
 期日 平成15年7月4日(金)  
 発表者 校長  
 内容 事業の概要やそれまでの取り組みについての状況説明
- (2) 尾上町教育研究会  
 対象 町内小中学校職員  
 期日 平成15年11月21日(金)  
 発表者 教頭  
 内容 事業の概要やそれまでの取り組みについての状況説明
- (3) 校内研修のまとめ発行、配布。(平成16年3月)
- (4) HP作成及びパンフレットの作成の実績はないが、平成16年度は予定している。
- (5) 研究成果の普及活動としては、町内の小学校に呼びかけ公開授業の参観及び授業研究会の参加の実績がある。
- (6) 習熟度別学習を小学校でも導入して、連携して取り組む体制はできている。
- (7) 研究の成果として「研究授業」の公開を予定している。  
 期日は未定であるが、平成16年11月ごろを予定している。
- (8) 研究の成果は「校内報告書」としてまとめ発行、配布(平成17年3月)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】      ■ 15年度からの新規校      □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】              □ 3学級以下                      □ 4～6学級  
                                  □ 7～9学級                        ■ 10～12学級  
                                  □ 13～15学級                      □ 16学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                      ■ T・Tによる指導  
                                  □ その他
- 【研究教科】              □ 国語                      □ 社会                      ■ 数学                      □ 理科  
                                  □ 外国語                      □ 音楽                      □ 美術                      □ 技術・家庭  
                                  □ 保健体育                      □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有      □ 無